

第四回ホスピ川柳一次選考通過 500 作品(順不同)

令和4年9月5日

株式会社名優

作品

吾の老いる道が見えたり介護職
この先の老老介護覚悟する
名や顔を忘れられても母は母
涙目で叱る看護に神を見た
「あと頼む…」握る母の手強かった
「ありがとう…」と掠れた声で逝った母
呼び掛けももはや母には届かない
白旗を揚げるな母よ目を覚ませ
「ありがとう」今際の母がしほり出す
会う度に「初めまして」と母笑顔
ありがとう父の最期に言葉かけ
また来いよそういった夜逝った父
母背負う免罪符無き反抗期
お母さん、お母さんならどうしてた？

雅号

どこにでもいる田中
ミスター10
豆の蔓
まつかぜ
慈雨
卯の花
薰風
破れ蓮(ヤレハチス)
安田蝸牛
大阪のアン
あんどらごら
ちとく
あまみ
タマラヤサ

すやすやと父の命の響く部屋
撫でられたいそれだけなのに叶わぬか
よかったです笑顔が答えおかあさん
父の背は富士山よりも偉大なり
言葉では伝えきれずに手を包む
その日まで笑顔絶やさぬ母でした
物言わぬ母の代わりに有り難う
頬と頬合わせて母の微熱取る
今日もまた喋らぬ父の髪を剃る
母介護せめて昔の罪ほろぼし
微かなる呼吸の母の手を握る
三度目の危篤に耐えたありがとう
頼んだぞ仲良く暮らせ先に逝く
助かるよその一言で頑張れる
おやすみとおはよう続く日々奇跡
よく眠る母の寝顔に救われる
見届けたあなた待ってて後でゆく
しゃんとせえ墓まで悩み持つてくな
その意味を知る術のないこんにちは

散歩道
かぐや
39 感謝ありがとう
ほろろ
やーくん
澄海
ジジジミー¹
小桜なちゅちゃん
じゃむぱん
一柳博之
おーさん
まごたけ
右田俊郎
ななな
Hash_Tosh
モモ
RON
こうちゃんママ
ひで

ただ一度母と指切り切りました
臥す母に閉店詫びる涙声
死にたいと言うな私を産んだ母
いつまでも守り続ける父と母
聞こえぬか戻れ戻れの俺の声
会いたくて言伝頼む頑張れと
誰一人置き去りません老病死
会いたいないつか必ず会いに行く
帰る時笑顔の母が「達者でな」
ありがとう今日は何回言ったかな
目と口の形でわかるア・リ・ガ・ト・ウ
手を握りあとは頼むと目が語る
ありがとう形にしますありがとう
名前呼ぶ何を言っても名前呼ぶ
ありがとう大好きだからこれからも
母が手を握る力で手を握る
もう一度声が聞きたく手を握る
まだいてと言えずにすねる畳部屋
嗚呼母よよう頑張った楽になれ

ノブさん
ひろぴー¹
八木五十八
タカ
マッチ坊
風の旅人
お酢
おくのまる
横手敏夫
はぐれ雲
花キャベツ
ガイア
かぐや姫
みっしー²
とも
老人生(ろうにんせい)
しもちゃん
下野えいこ
どんぐり

忘れてもいいよ私が覚えてる
あなたたち置いて逝けない母の意地
わかってるあなたの辛い障害を
言えなくて寝顔にそっとありがとう
光浴び今日も生きると祖母は言う
労いを背負って歩く朝の道
介護してやっと母さん独り占め
一秒がその一秒が胸を衝く
透析や治ることなしの日まで
我知らぬ母の姿に反抗期
明日から帰宅する先ホスピタル
ダメかもと待合室で見る夜明け
書かないで先生そんな紹介状
通院と服薬の日々ものがなし
握った手吐き出す息で「ありがとう」
いてくれる幸せ思い下の世話
絶え絶えに残してくれた「ありがとね」
深夜まで病院はしご子の為に
この一瞬残る思いに心込め

くろにゃん
立夏
河村めぐみ
糖質無制限
ジョアン
みやこ
角森玲子
あっちゃん
まことです
あつし
ぽっぺ
三木首相
せきぼー
関口恒衛
福多郎
優々丸
本宮真智子
まあや
りんごアメ

逝くな母何度か叫びさよならと
母の母、私を重ね母を呼ぶ
玉子焼き祖母の好物作る祖父
家族よりよく効く薬ありません
粗茶ですが命をつなぐおもてなし
焼香も出来ずに叔母を見送った
消毒で荒れたその手があたたかい
ありがとう火葬の煙見て祈る
天を指し先に逝くねと夫の目が
握る手が戻してくれた妻のそば
ああ母よわからなくとも我が母よ
少しでも長生きしてと願う日々
「帰りたい」後ろ髪引く父の声
ありったけ笑顔を持って会いに行く
無理するな寝言に涙頬つたう
もう誰か分からないのにありがとう
生きてれば母もこの年この介護
私見てまもってくれる私の子
どの人も誰かを支え支えられ

たかさま
芭蕉のオンナ
上栗
緑波
烏蘭
森のくまおじさん
岩中幹夫
くんぼー
岩田美穂
ひろ
カメイトシキ
菊間美香
黄金虫
伐株
あかこっこ
ともきっず
トモママ
りなぞー
セレン

「すまんねえ」氣づかいなんて「いらんねえ」

目に映る私を癒すその笑顔

ありがとうの気持ち背押し心押す

腕さすり血の薔薇を消す母生きろ

お別れに集まりし人枕元

額縁やなぞるは母のかの温み

『またくるね!』届かぬ声のもどかしさ

「ありがとう」小さい母の手天使の手

手をつなぎ見つめるだけの介護です

横たわる祖母につぶやく『ありがとう』

頬合わせ母の匂いに頬濡らす

何か飲む?精一杯の祖母の意思

「母さんを頼む」と父のしぶり声

からだ拭く手に手を重ねありがとう

張り合いは頼られているでくの坊

窓越しに届けと願う元気になあれ

渦の中子の顔忘れ逝くな母

さよならと言えずに父に添い寝する

父が逝く施設の母は笑み変えず

いな作

ヨッシー

満濃池太郎

颯光

橋俊行

混和

さーちゃん

久保田毅

夢人

たかえもん

招き猫ヒロちゃん

わこ

瀬戸のオリーブ

テルとも

浮世っ子

みやも

みやちん

いぶき

太陽が暮れた季節

海育ち母よココロは凪ぎであれ
認知症初めて母の手をひいた
親孝行しみじみ分かる今になり
面会の5分に父へありったけ
人前で辛さを隠す名演技
返しても返しきれない親の恩
よかったです…今日は息子とわかってる
母がまだ言う食ってるか風邪ひくな
休みなしそれでも笑顔見たいから
ホスピスの窓の朝陽にありがとう。
ホスピスの花はずうっと枯らさない
受け入れる少しの望期待して
おんぶしてくれた背中をさする夜
有難う忘れられても言い続け
耳元で泣いて叫んだありがとう
孫の顔忘れぬように書く手紙
澄んだ目で初めましてと笑う祖父
枕元母だけ照らす朧月
逝きざまは見せて貰った次は俺

花一匁
一步二歩
里の
ルーク
みい
甘えん坊将軍
乳母車の弥七
かきくけ子
ペニー
踊ヘップバーン
働き蜂ちえちゃん
ゆうゆう
リーフ
俳諧オジサン
歌仙草
ガーデン
福豆
とみ子
山法師

宣告に悔いと安堵と静けさと
手を握り甥を息子と寝息立て
手を引かれ歩いた母の手を引いて
遠いひとみなしで演じる白い嘘
後悔の念をも癒す母日記
手を握り心の温度通わせる
忘れない母のぬくもり抱きしめて
「また来るね」だから来るまで待っていて
介護して父似と気づく足の指
何回も聞かせて欲しいまた来るね
ありがとう義父の遺言思い遣り
大さじも小さじもいらぬ母の味
悲しみも手放せるなら救いだろう
母を抱く抱かれたころのように抱く
めぐりめぐる今は私がいざれ私も
床ずれの母の背さすりすすり泣く
許してねママより先に逝く不孝
澄んだ目でじっと私を見てた母
じいちゃんと呼んで引く手に願い込め

とよ爺
あるふおんそ
のほほん
路人
えっちゃん
ミノエア
紀子
弓次郎
桃太郎
ムーさん
ら☆むうこ
幸ちゃん
友常甘酢
こぶだい
麻衣智
みきちゃん
かばくんのかば
福良雀
だるま

痛くない苦しくないを祈るのみ
目を開けて俺たちここだ母よ母
診てもらう？母の答えは「大丈夫」
垂れる汗あなたの笑顔見たいだけ
まだ父が父だった日の缶ピース
ありがとう言ってもらえてありがとう
初体験祖母の身体は軽かった
死にたいよ死にたいくらい辛いよね
触れる手が最後の薬受け取って
豪快な笑みで祖父母の母となる
点滴のパックに書いたありがとう
書いてみる明日という日は明るい日
頑張ったただ孫の手を握りしめ
激痛に耐えた眉間にただ撫てる
ありがとうといつていけたらありがとう
答えならもっと生きるという心
昔日の母の背中を見て涙
透析の父の人差し指の先
バカヤロウ今は言われて泣けてくる

さくらこ
無ニ
ズンコ
麗華
ちゅんすけ
DODGE
いちご大福
りあん
クマ吉
村崎香
純に生きる
もえぴーの夫
進さん
中年やまめ
ムツちゃん大好き
みんせい
不肖の息子
とっしー
春嬉

ありがとう思い出残し逝った父
見て聞いて触れる看護に託す母
大丈夫!生ききる力、支えるね
祖母が呼ぶ息の全てで私の名
おぼろ月治りかけたる病かな
母の眼に私が映る見てるんだ!
回復の思いを込めて千羽鶴
伝わるよ話せなくとも気持ちはね
「頑張って」青い私の育て親
忘れても私はずっとあなたの子
生きるとは教えてくれたその笑顔
かみなりはもう落ちないの涙だけ
何時だって涙を見せぬ母泣いた
父の日が涙とまらぬ一日に
親になり母の気持ちを分かる今
あの母がさらに小さなのど仏
おじいちゃん聞こえてるなら名を呼んで
「体」から荷物下ろして「休」みましょ
強がりを言ってた母が介護され

まきこ
これでヨシト
トラピ
うい
まほろば
えみこ
マリリン
てくてく
川
けんちゃん
ユキちゃん
看護師の一人娘
ドントミツ
よっちゃん
はしくん
山元文博
ペペちゃん
うーるちゃん
多賀二郎

ありがとうただ五音だけありがとう
布団あげ苦になる歳になりにけり
リハビリに耐えて退院引き寄せる
母完治号外配る夢を見た
父と見る最後の箱根駅伝か
手を握るその手に込める恩返し
母暮らす川のせせらぎ枕元
意識ない祖母をみつめる母をみる
生きてきた証がわかる握った手
一歳にかえるおやじを老介護
花吹雪搔き分け進む車椅子
あんただれ今日も始まる自己紹介
からだ拭く手が止まりそう痩せた足
尽くされて感謝しかないベッドの身
「ありがとう」言葉に出せず手を合わす
「淋しい」がいまわ(今際)の言葉母は逝く
子を泣かしごめんごめんと小児科医
目一杯精一杯に手を握り
退院で寂しくなった空きベッド

遊今
ユニコーン
やまちゃん
メガネの山田
河内遙
ハピゆずちゃん
たかちゃん
花桃椿
みわ
山本明
山本明徳
ぽんこ
真樹
米太郎
たかちほ
スマトラトラ
柴田睦郎
一番星
彩の助

介護して今までのこと悔悟して
軍手脱ぎ母の余命を知った夏
老々の介護互いを慈しみ
耳元の囁き誘う涙かな
頬撫でるわが手一筋涙引く
義母介護桜花を愛でる車椅子
顔忘れやっとわがまま言えた母
ボソッと言う精一杯の父の礼
辛かろう母の手を揉む足を揉む
通るたび祖母の面影探す窓
いつ来るの電話の父は涙声
わたしの名忘れられても母は母
俺の手をバトンタッチと握る父
大丈夫妻に最後の嘘をつく
感謝しかただ感謝しか散る桜
冬の暮祖父の温い手今一度
話せない母、離せない離さない
過去は過去という祖母の手皺の数
今母と会っているのね夢の中

わたる
かのカッチャン
ロビンフッド
ありません。
小笠原信行
リズ
風信子
清柊
小原久美子
お餅
なりきん
かかさん
光の真珠
しづく色
逆ペリカン
りい。
そよか
コイケママ
おるめる

さよならと上下している深呼吸
顔忘れ名を忘れても愛しい手
七夕の祈り無くして床につく
「また来るね」孫の一言いい薬
抱きしめて母は私の子になった
皺の手を温かい瞳を忘れない
春の夜に溶けゆく寝息あすは晴れ
無念だと父が涙を見せた夜
帰りたい涙ながらに父が言う
敬語など使わなくてもいいよ母
悲しみは忘れあなたは忘れない
細々と叱るベッドの息遣い
生涯を誓った人と病室(ここ)にいる
父さんや今度は俺がウルトラマン
手をなでて記憶を辿る「ありがとう」
寂しげにするなと諭す臥した母
ありがとう伝えなければ分からぬ
寝たきりの苦痛そのまま生きていて
遺言に「家族」と二文字書いた父

ごん太
てい一
かわちゃん
川柳明人
夢追い人
静流
ふーみん
セピア
しまうま
小澤俊彦
さごじょう
松下弘美
ゆうゆうパパ
松庵
カフェラテ
清詞薰
山月
まっさん
たつく

饒舌に変わった主治医の聴診器

seiten

あなた誰怯えた顔で母が言う

杏

口数が減るほど増える笑い皺

デシ

夢でいい母に会いたい縋りたい

風鈴草

ありがとう母は言うけどちらこそ

やっちゃん

いつまでも孫だからねと握った手

むーむー

螢火に父の魂あらまほし

月兎

生きている伝わる父の握手から

ベス

仄見えた心の言葉ありがとう

かくら

「看護」姿にようしてくれて母の声

新屋洋子

心配をさせまいと母痛いとも

さんごしょう

つややかに百年生きて目をつぶる

愚童

亡き友の耳朶に残りし「又会おう」

くにたろう

初介護母の軽きを知る重さ

夏舟

振り向けど寝床に君の姿なし

ももももも

思い出すたまに私の顔と名を

うめママ

車いす畳んで父の武勇伝

もふもふ

見開いた親父の瞳映る顔

すだち笑む

最期までわがままごめん逝かないで

きなこ

母の手を握る感触忘れない
握る手が溶かしてくれたわだかまり
ありがとう意識なき母目をあける
おはようと当たり前の朝幸せ
母想う介護へ母は子を想い
臥す父に寄り添う母はたくましい
気をつけて帰れと父の面会日
ひぐらしの下り坂抜け母のもと
何もかも忘れた母に雛飾る
三輪車乗せた孫押す車椅子
寝る母の味に近づくいなり寿司
心電図父の命を連れて逝き
親孝行後で思うは親不孝
手を繋ぎ今日は私が祖母の杖
声の出ぬ祖母が目で言うありがとう
懐かしい涙しながら歌う歌
点滴の時を刻んで音もなし
お母さんあなたの強さ引き継ぐよ
駆け付けて母の手そっと摩るだけ

ねこねこ
わらび
杉坂由加里
金ちゃん
湘路
やんちゃん
モコ
夏明かり
正さん
正能照也
うさぎちゃん
ハルル
心の叫び
HKぼすさん
SKかぴさん
朔
好日郎
しなやかーる
幸せトンビ

死を告げる医師のやさしき無表情	豆風
痰をとる生きる証の苦しみよ	あんこもち
違う名で呼ばれようともおらが母	武庫川龍之介
曾孫(ひこ)が触れ微かに祖母は微笑んだ	昌代
あの母はいづこ箸さえ重そうに	あおちゃん
聴こえないふりか本当か父笑う	鍵盤タロウ
体拭き優しくいつもありがとう	たまちゃん
また今度涙する祖母またはなく	みっちゃん
病室で眠る吾(あ)父の「すまないね」	瑠珂
明日じゃなく今日がわが身になっちゃった	蛙屋柳斎
あの頃の話少女の母がいる	木立慈雨
最高の治療薬は笑顔だね	うめきち
褒められたい月に一度の血液検査	ふわふわこ
深呼吸父在る階へエレベーター	かわかみめがね
出来るんだ目が語ること分かった日	無色
床の母大の字何を夢見るや	れこちゃん
何ひとつ返せぬままに父送る	春風
この鼓動この手この皺永遠に	みどり
母笑顔施設の庭で歌ってる	川津逸雄

伏す母に眼鏡を拭けと諭される
床擦れに涙が滲むふたつの背
そのままに夫の湯呑みの茶しぶ跡
この手からまな板トトトもう聞けぬ
ありがとうその一言で頑張れる
臨終に互いに想うありがとう
ありがとう母が背中に指で書き
老いた母見るのは辛いでも通う
介護するわが身もやがて要介護
そばにいる寝るまで待とうおかあさん
からまった気持ちと体ほどいてる
モグモグとゴックン出来て誤嚥なし
いいんだよここでは凛としてなくて
もう一度叱ってくれよ母ちゃんよ
届かない言葉よりただ手を握る
痩せた腕叱られ泣いた日は遠く
あなた誰息子ですとは言い出せず
ありがとう言葉じゃなくてそれでいい
広き背の枯れて尚更父となり

せちい
こり
ちいちゃん
小春日和
すまし汁
ねこきちママ
よしりん
山宗雲水
ミーシャ
哲將軍
今ゆうよ
かたこるよ
とし
莊子隆
ベンジャミン
春本楓
睡魔～
みかん
知足

大丈夫心温まる言葉遣い
ここに居る銀河から手を振る母よ
難治療今日も命の息を吐く
奇跡など信じぬ者が天仰ぐ
忘れてもいいのよ笑顔以外なら
家かえろ花ならあるよ振り向いて
元気かと問うた電話に元気かと
元気かと夢に出てくる母の声
帰りたい帰せ帰るとどなる父
触れ合える当たり前では無いんです
食細くもっと食べてと願う日々
会えずとも確かにこれは母の文字
緘黙の祖父が笑うよ孫を見て
孫の顔忘れた祖父の孫自慢
背を支え記憶の海を泳ぐ午後
母は母心の思いきずく我
時流れ今は静かに時を待ち
ダイエット病みて痩せゆく父のウソ
子へ返る母と手をとりわらべ歌

太領
来音
マコッチャン
やすよ
次女
やまし
がっちゃんまん
秋空
風姿
ミーオ
棗
花乃牛車
寄り添い小町
にわとりママ
椿
まるみるく
のんちゃん
羽華
ミッキー

誰が為母の背中にありがとう
この母にまた生まれたし手を握る
今しかない母と過ごせる介護日々
ありがとうそう言う母にありがとう
地図の無い介護に介護士の笑顔
「俺よりも先に逝くなよ我が妻よ」
「またねー」にウンと微笑み母が逝く
弱いとこ見せたくないと励む日々
凛とした母の覚悟に敵わない
手放せぬ気配の残る敷布団
旅立ちの前に放ったありがとう
天国で私は母の母になる
おしゃれなど知らない母に紅をさす
逝きたいが生きたいなんて母枕
マスク越し想いも声も届かない
お茶を出す母は私を忘れてる
口紅を引いてあげると母笑顔
ありがとうその一言で暖まる
いかめしい父もナースの言うがまま

しんの
竹田篤子
レイチェル
くまちゃん
中原政人
デシ
雪ぼたる
ソークラ
虹の影
虹色
mamix
中村登志子
みのり
中村利之
中々です
ろんちゃん
仲正行
がりり
ノーリー

手を繋ぎ薬貰って帰る道
妹よ視えない世界魅せてやる
安らいだ母に家族が癒される
苦しくて介護の母に会いに行く
しようがない悟ったように夫の言う
「また来てね」切ない声に「また来るよ」
有難う毎日世話に苦労かけ
亡き父を見送る祖母が泣き叫ぶ
命衝く臍の緒辿り我を解く
煙草の火切ない匂い咳の音
離れても心だけはね離れない
明日の晴れ強く願って日が沈む
すっと死にたいと茶を飲み母が言う
わかるかなわからなくとも母は母
母戸惑うとうとう俺も知らぬ人
追い越せぬ背中のままに父が逝く
手抜きしていいよと母が手を握る
雲になる母を抱えた手の名残
痩せた手が叱った褒めた導いた

長谷川浩治
おしゅん
長谷川千流
こうたろう
なこさん
ハッピー椿
てるてる
みつ
種
高橋一郎
たむぞう
茶飯士
晶
田中浩子
ふゆりん
あぶれもん
三郎
けんりゅう
蒼介

今日もまたやりきったよと明けの空
帰りたいただそれだけが叶わない
朦朧と生きながらえる父の意志
あの頃の元気な姿忘れない
小さな手それでも強く生きている
点滴の刺すとこなくて俺を見る
お母さんこれから僕が杖になる
語らえば想い出尽きぬ走馬灯
忘れられても忘れられない母の笑み
頑固さを捨てない父に笑う母
おもちゃ捨て母の手握る小さな手
生んでもくれ生まれてくれてありがとう
母の日は白寿の婆も母になり
こんなにも軽かったのか車いす
一皿に盛り付けられた母の死期
母涙父の遺影に施設から
最後まで聴こえる耳にありがとう
難病の孫代わりたいこの爺が
どなたさまですか母の言葉をうけとめる

ろんちゃん
春風
つちのこ
しま
島内郁子
さいがわW
拓ちゃん
東谷龍司
減点パパ
まろん
くまわんわ
はるやす
てる味
よし得
城主ミライ
カズティー
まちねこ
仁太郎
ちいちゃん

こと尽きるときになつても親は親
人々の間仕切り越しに合わせた手
しわの手を孫の小さな手が握り
母の子でいさせてくれてありがとう
また来るね閉じたまぶたにする鼻
届いて!と身体をさすりただ願う
もういいと看取り気遣う最後まで
何もかも失われてもああ、母だ
見えぬ母孫の顔なで息子似と
どちらさま?笑顔で聞かれ泣くこころ
弱音吐くたびに命が削られる
「そばにいて」寡黙な父の最後の願い
母の背を擦れば母の目に涙
また明日と繋ぐ手と手に明日は来ず
目を開けて叱っておくれお母さん
ありがとういつも笑顔でつらくても
小言から小声に変わり歩み寄る
粗相してあやまる父に泣いた朝
笑えるか母に敬語を使わされて

医療と魔法使い

小夜

馬場鈴代

四季

なふあ

白取令子

白瀬美智男

MS

白い馬

おだんごまむ

みらいむ

ばん

風まかせ

みー

おとちゃん

飯塚一隆

きんぐ

番場馨

つべる

花を見る笑顔はずっと変わらずに
肩貸すよ心と身体委ねてよ
無理せずに普通にすごせ父の声
ぬくもりに微かに触れたガラス越し
父さんのバトンは俺が受け取った
次の世も母は私の母でいて
「久しぶり」近くで遠いガラス越し
めくばせて何も言うなと語る母
温かい手の温もりよ消えないで
「出て行け!」と言ってた母が「いつ帰る?」
母を見る家族会議はみな無口
声掛ける分からなくとも声掛ける
手を繋ぎ歩く見慣れた散歩道
立ちたいよね歩きたいよね気が急くな
お見舞いの言葉をいまも聴いている
忘れられそれでも祖父を忘れない
ありがとうその言葉から救われる
天寿などあってなるかとする介護
家族写真笑った祖母を持ち歩く

ばるちゃ
桜モチ子
バンブー
桃李
天和
そめい
ペイヤん
オム列
ダイヤモンド母
ヨネタク
河内っ子
兎ママ
あいらぶ
吉哉郎
反時計
蓮
トオル
上の空
白とり貝

また来るねサヨナラする手握りしめ
病室の名札にそっと手を重ね
最後まで僕を叱って逝きし母
病む母に病む暇無いと教えられ
父の入院気を揉む母の愚痴を聞き
人としてあなたの旅を守りたい
白衣見て血圧あがるまだ若い
お世話になった母への感謝介護の日
頑張るよ祖母の言葉が切ないよ
介護するされてる母の辛さかな
想いのたけ乗となりてこぼれだす
お母さん呼ばれて戻る母の顔
やすらかな静かな最期語る顔
こんなにも母の感謝に涙する
おふくろの姿を映す影法師
大砲の音を父には聞かせない
介抱がかいがいしくて快方へ
半身が動かざるとも父強し
介護され禁酒・禁煙できました。

愛植男
めめりん
ほりたく
ペースかめ
彩珠たろう
ともくん
天英
まきばの空
ババっ子
すずめ 389
ノキ
青田風
あぐみ
愛の希望
延門
いーなん
さくらく
forte
介護の達人

もう一度親父の平手食らいたい
温かい手のぬくもりはわすれない
『わたくしの脳でよければ移植して』
「大事な人」亡き父の顔指さして
迎え待つ母の笑顔に朝日さす
真っ直ぐに生きた眼差し忘れない
怒鳴られた父を怒鳴っている夜更け
偕老の美男美女にて別れ惜し
頼るなど医師に言われて誰頼る
お風呂入れ子供にかかる母の頬
ありがとう…溢れる想い詰まる胸
家族より全部知ってる看護師さん
この日来てあの日の母はいまどこに
愛猫の老後気遣う老母なり
どなた様息子に訊くな我が父よ
わしはまだ世話にならんと父は泣く
同じこと笑顔で話す祖母の日々
寝たきりの看護を受けて知る情け
捌かれる鯉と覚悟を決めた朝

兎亀
くるみ
九(いちじく)
のじまよしえ
Nチャレンジ
真優
ルーキー^{ルーキー}
おぎこまこ
キャサリン
Dr.トリュフ
はるさめ
ちゃむ
奥の寄道
さち
はりきりー
潮汐
林和志
雀の涙
未熟者

窓開けし小鳥の声はおはようと
紙パンツ穿いていつもの春の水
時に母時に子になる笑顔好き
見たくない家族に会えずにまたひとり
若き日の母の字躍る母子手帳
父よまだ息を止めるな子が帰る
妻を呼ぶおーいのこだま響く部屋
貴方だれ手押し車の母が問う
こんな濃い時間があるだろうか父
「雨あがれ…」病床の母ひとりごつ
小さな手ぎゅっと握って夜が明ける
浦島の淋しさを知る母看取る
言い合ったあの日も全て愛おしい
不器用な生き方でした最期まで
日向ぼこ義母(はは)は静かに壊れゆく
玻璃(はり)越しにまた来ると手を重ね合い
寝たきりの祖母に葛湯のひと凹み(くぼみ)
夫の眼差し微笑みだけは奪えない
ありがとう受ける言葉の重きこと

ブレンディー
鈴木游夢
沙緒翁
はなっしー#####
華杏
りきまる
澤田和之
ヤスケ
悦
ゆうたろう
えびちゃん
ジゴさん
紫陽花
森下綾子
ノブちゃん
キクちゃん
エリちゃん
妙子
六花

ありがとうその一言が置き土産
葉桜に私もなるよ母が言い
見舞うたびやつれた母に涙する
怒ってよ昔みたいに強い父
ありがとう何度も言っても足りないよ
目を覚ましこはどこだと騒ぐ母
手を重ね来世も姉妹約束よ
やりきったと言う死顔まさに君
車いす父の背中に想う夢
口ひらき銀河を吐いて母は逝く
始まりはアクリル越しのありがとう

みどり人
一刀両断
ショウちゃん
のんのん
空師
ヒレナガメダカをこよなく愛する人
道
馬場敏美
マーシ
ホスピ樽
スースー

以上一次通過 500 作品